

その時

騒然とした現地

立ち向かう人たち―

当時、御船町職員で総務課交通消防係長（43歳）。大雨洪水警報が出てから、雨は止むことはなく、バケツから浴びるような雨がずっと降り続けていた。4丁目から1丁目までパトロール中、1丁目に差し掛かったとき、膝まで水が来ていた。役場では警戒体制に入るが、道路が冠水し、崩れたため、職員がすぐに役場に来ることができなかった。役場の電話回線がパンクする中、自衛隊に応援要請。炊き出しも同時に行った。消防団には、各地域ごとに土のうを積み上げてもらい、住民への避難を呼びかけてもらったが、あつという間に濁流が押し寄せ、浸水し、目鑑橋が流された。御船川には、たくさんの車が流され、たくさんのものを飲み込んでいった。30年経った今でも、忘れられない。

備えあれば、憂いなし。災害はいつ・どこで起きるかわからないがいつでも対応できることが重要になる。

interview インタビュー*



3丁目囃託区
江口 壮 区長

雨が降り出したのは、5月3日の昼過ぎだった。当時、甲佐町にいたが、かなりの雨が降る予報だったので、急いで御船に引き返した。自宅にいと外から「助けてくれ！助けてくれー！」と声が聞こえた。外に出てみると目鑑橋が崩落し、車ごと転落して、梅の木にしがみついて助けを求めている人がいた。急いで上益城消防署に駆け込み、助けを求めたが、上益城消防署も町全体の救助に入っていたため、自分で「なんとかしなきゃいけない」と思い、弟の岸勝泰さんや自宅前の駒水さんと呼び、ロープを投げて無事救出した。その直後に梅の木は流されてしまい、間一髪だった。本当に助けられてよかった。困難なことが起きても、自分で対応・判断することが大事。そして、乗り越える力が必要。被災して大事な教訓を学んだ。

interview インタビュー*



(株)御船運送
岸 勝儀 会長

これから

あれから30年―

風化させてはいけない
これからの教訓

「自助」「共助」と防災意識

「自助」は、自分の命を守ること。自分が倒れてしまったら、他の人を助けることができない。そうならないためには、いつ起こるか分からない災害に対して、災害用品の準備や心の準備をしておくこと。それが被災するリスクを回避することにつながる。

「共助」は、共に助け合うこと。日ごろからの地域とのつながりやコミュニケーションが大事になってくる。つながることで「なんとかしてくれるだろう」と他人任せ、行政任せという気持ちにならず、自分たちで生きていこうという気持ちになると思う。地域の事情が分かるからこそ、優先

的に現地向かい、知っておくことで助けられる命がある。自主防災は、共助にもつながるが、日ごろの訓練が大事。本当の自主防災組織では、一人一人の防災意識を高めることが重要である。

風化させないために

昭和63年5月3日の大水害は、消防団に入団した年の出来事。水の怖ろしさを改めて実感したときだった。今は、天気予報などの情報 that 得やすい時代。上手く活用して、地域の声掛けを大事にし、早めの避難が重要。災害は忘れたころにやってくる。風化させないために、記録を残し、後世にも伝えていくことがわたしたちに求められる教訓だ。



御船町消防団
内村 光宏 団長



突如町を襲った大水害と

濁流とともに消え去った目鑑橋―

時間が過ぎてゆく中で、薄れていく記憶と残る記録

犠牲の上に成り立つ今、求められる私たちの行動

今を生きる私たちがこの時の教訓を

次の世代に伝える役割を担っているのです

※当時の目鑑橋の写真です

22時12分 八竜橋上流20メートル付近の堤防が決壊。
22時15分 第9分団長（豊秋）に支援のため出動と最大限の水防措置をとるよう伝達。
22時30分 行方不明者、遺体で収容。御船川水位低下し始める。

各地区での避難状況
町立体育館・27人 上益城消防署・60人
御船警察署・50人 高木小学校・40人
小坂小学校・30人 小川野公民館・4人
農協水越支所18人 計229人（確認のみ）

5月4日
8時30分 炊き出し作業開始。
// 被災地の土砂、廃棄物の除去作業を消防団、町職員で重機等で開始するとともに、防疫活動も合わせて実施。
8時45分 災害対策会議。
9時 自衛隊に出動要請。
9時 被害状況調査のため職員を各地区に派遣。
9時30分 住民の行方不明の通報。消防団、警察が合同で捜査するが発見できず。
11時 県知事被災地視察のため来町。
12時 被害状況報告第一報作成。
12時30分 行方不明者、遺体で収容。
16時55分 大雨洪水警報解除。
21時25分 自衛隊先発隊到着。
22時30分 陸上自衛隊災害復旧作業にかかる（中辺田見地区）。

5月5日
6時30分 自衛隊復旧作業終了。

5月6日
日赤より救援物資着荷。

5月9日
国から国土庁、建設省などが被災地を視察。

5月12日
政府災害特別委員会来町。

5月14日
9時30分 災害対策会議。
10時30分 災害対策本部解散。